能登町立鵜川小学校　令和2年度学校評価　評価資料　教員等アンケート

評価⇒　4:あてはまる　3:だいたいあてはまる　2:あまりあてはまらない　1:あてはまらない

●「Ｒ２年度　第１回学校評価自己評価」のための評価資料①（アンケート）

通し番号		内容	評価	現在の取組状況	今後に向けて
1		学力向上プラン「目指す姿(授業)」をイメージして、授業を行い、学力の向上を図っている。 ★【学校研究の視点】	4→5 3→1 2→0 1→0	・原動問題が教科書以外の問題を取り入れているので、思っていた授業の流れとずれてしまうこともあった。 ・原動問題において、どの既習を使えばよいか明確に示し、全体でしっかり確認している。 ・１単位時間の授業において、児童から出ると予想される考えを常にもち、授業に取り組んでいる。また、原動問題を３単元で実施することができた。 ・原動問題を行うことで、複数の既習事項を組み合わせながら問題解決しようとする粘り強い意識が子どもたちについた。 ・問題場面を数理的に捉えることの難しさや良さを味わわせている。なぜ、乗法なのか除法なのか、少しずつ理解を深めている。	・単元の目標を確認しながら、適切な問題を考えていく。 ・日ごろの授業でよりいっそう既習と結びつけた授業づくりを行う。 ・授業を子どもたち自身が作り出していくしかけを行うために、授業の流れをパターン化し児童と共有を図る。 ・既習を使って難しい問題が解決できる喜びを児童が感じられる授業をつくる。 ・学習した内容を生活に結びつけられるような意識付けを図りたい。
2		学力向上プラン「目指す姿(基盤)」を達成できるよう、取組を理解し実践している。 ★【学校研究の視点】	4→4 3→1 2→1 1→0	・塾則５タイムの実施のために、学習リーダーを取り入れ児童に練習させている。まだまだ円滑な話し合いはできていない。 ・塾則５タイムにおける話し合いの視点が児童に伝わらず曖昧になっている。 ・１学期は、授業に集中すること、自由に発言することに重きをおいて取組を行った。その結果、７月の中旬過ぎから児童同士で対話を進められるようになってきた。 ・１学期はグループでの塾則５タイムを多く取り入れた。児童が考えを伝えようとする積極性は伸びたが、分かりやすく話すこと、話し合いをつなげていくことはまだまだである。 ・まだまだ話し合う素地を固める必要がある。	・円滑な話し合いができるように、学習リーダー制を取り入れた塾則５タイムの活用を増やしていく。 ・話し合いの視点をどのように明確に示しているか教員間で話し合う。 ・対話を児童同士で行うために、授業の流れを把握し、何を話し合うかを明確にする。 ・話し合いにつなげるためにも、相手意識をもった簡潔で分かりやすい話し方を教えていく。 ・話し合うことの有用性、必要性を感じさせて、子どもたち自身で話し合うことで理解できたに繋げたい。そのために、教師の認めていく言葉がけをしていく。
3		タイムマネジメントを意識して、授業改善に取り組んでいる。(算数科【数学的な考え方】においては、3問完結)	4→2 3→3 2→1 1→0	・３問出せる単元と操作活動が主な単元もあり、必ず３問して授業を終わるというのは、難しい。 ・時間配分にズレが生じた時に、教師の方で説明、確認をして進めた。 ・つかむ場面で見通しを持たせること、自分の考えを書く時間を決めること、児童の説明のポイントを絞ることを意識して授業を行った。 ・児童の話し合いの視点がうまく絞れると３問完結の授業を行うことができる。 ・基礎を固めている段階であり、タイムマネジメントはできていない。	・原動問題ではないが、教師が３問になるように問題を用意する。 ・児童の実態を踏まえ、３問の内容、レベルを吟味し、時間配分を考えていく。 ・毎回、授業の流れを児童と確認をして、３問できるようにする。 ・児童に考えさせる。話し合わせることのポイントを明確に絞る。 ・題意の把握を７分で行いたい。
4		ICTの効果的な活用と板書とのバランスを考え、児童の学力向上に努めている。	4→3 3→3 2→0 1→0	・なるべく視覚的に効果のありそうな動画などは積極的に児童に見せ、ICTを活用している。 ・児童のノートやワークシートを写真に撮り、モニターに映すことで全員が同時に見ることができて効果的だった。 ・その日の授業の中で、ＩＣＴの活用場面と板書をする場面とを意識して取り組んだ。ＩＣＴは、問題提示の時や写真を提示するときに効果的であった。 ・実際の授業に用いるだけではなく、教材作成においてデジタル教科書は有効である。子どもたちに板書、ICTとどちらが有効か考えて使っている。	・パワーポイントを使った授業が効果的だったときもあるので、パワーポイント教材の作成も視野に入れていきたい。 ・何を大型モニターに映し、何を板書すると効果的か考える。 ・タブレットの効果的な活用方法を考える。 ・能登町に来て２年目だが、タブレットをうまく使うことができていないので、「はら金タイム」でしてくれたら嬉しい。
5		『家庭学習の手引き』等を活用して家庭学習の内容，方法等について具体的に指導し，児童が何をどのようにすればよいのかを明確にして，家庭学習の定着に努めている。	4→1 3→4 2→0 1→0	・宿題の量を調節したり、確実に力がつくように音読や計算カードを取り入れ、保護者にも協力してもらいながら、努めている。 ・初めて取り組むような宿題では、書き方や進め方を学校で確認している。 ・宿題の内容を確認し、難しいときは説明を行っている。宿題の提出率は高い。 ・見本や良い友だちの紹介などで家庭学習の取り組み方を指導している。 ・その都度、子どもたちに話している。	・宿題の量を考えていく。 ・家庭学習の様子を保護者の方と情報共有し、一人一人の実態を把握し、手立てを考える。 ・宿題の量を考えながら、１日４０分、学習するようにする。 ・全員が確実な家庭学習に取り組むことを目指す。 ・こどもたちの頑張りを認めていく。
6		『うかわっ子の学習ルール』をもとに，全校一致して指導にあたっている。	4→4 3→2 2→0 1→0	・筆箱の中身について、ときどき確認させている。 ・適宜、指導や確認を行っている。 ・児童の様子を把握し、ルールの確認を行っている。 ・持ち物チェックを月に1回は行っている。子どもたちはルールを覚えており、守ろうとする意識が高い。	・授業前の授業準備に気をつけさせたい。 ・守ることができている児童を褒める。 ・ヒヤリハットの精神で、小さなほころびを感じて、指導する。 ・緩んだところで繰り返し指導する。 ・引き続き定期的にチェックしていきたい。
7		「模擬授業」，「研究授業」，「校内研修サポート事業」，「要請訪問」の活用等により，授業力の向上が図られている。	4→3 3→2 2→0 1→0	・全員が意見を言ってみんなで考えるようにしている。 ・模擬授業でも研究授業の整理会でも自分とは異なる考えに触れることができ、参考になっている。 ・模擬授業、研究授業において、活発に意見が出ていた。 ・見られることは良いことだと思います。	・視点を持って臨む。 ・学校研究に関わる取り組みを共通理解、共通行動する。 ・今後、校内研修サポート事業を取り入れられると良いと思う。 ・研究授業は略案だと負担が少ないし、年に２回することも可能。模擬授業のハードルも低い。研究授業で書いている細案の教材観、指導観等を見る余裕がない。細案は計画訪問で書けるので、略案希望。無駄な負担は減らして、授業準備等に時間を割きたい。
8		児童理解の会での共通理解と共通指導の徹底，人間関係づくりに関する校内研修会の開催等により，児童のよりよい人間関係の構築に努めている。	4→4 3→2 2→0 1→0	・児童の特性や苦手なこと得意なことを伝えるようにしている。 ・児童理解の会では、アンケート結果や気になる児童について、Excelのデータを全員で見ながら話し合いができるので良い。 ・毎回、共通理解が必要な児童について意見の交流ができ、共通指導につながっている。 ・全職員で話をすることで、共通指導につながったり、新たな視点での指導に生かせたりしている。	・教職員全体でどう関わっていくか、考える。 ・他学年との人間関係づくりにおいて、よりいっそう共通理解、共通指導を行う。 ・児童のよりよい人間関係の構築のために、学級活動やたてわり班での交流を取り入れる。 ・指導の効果や児童の変化を踏まえて継続して対応していく。 ・児童の実態、あったことは読めばわかるので、共通指導の確認だけでよいと思う。
9		道徳の授業では，学校行事や特別活動，実生活等との関連付けをしながら，道徳的な実践力が高まるように努めている。	4→3 3→1 2→1 1→0	・ふとしたときに道徳の授業を操作させ、「あの話ではどうだったか」と聞きながら、児童と関わっている。 ・学校行事は少なかったが、実生活との関連付けを意識して取り組んだ。 ・常に、学校生活や日常生活に結びつけて、考えさせた。その結果、自分をふり返ることができていた。 ・毎時間、自分の生活について振り返ったり考えたりする時間を設けている。 ・行事等と関連付けてはいるが、自身が行っている道徳の授業が果たしてよい授業なのかわからない。道徳が一番難しい！	・実践力を高めるための取り組みを話し合う。 ・実践力が高まったかを把握するため、日常的に児童の様子を見取り、変化を見逃さない。 ・２学期は学校行事でも道徳的価値と結び付けて指導、ふり返りをする。 ・子どもたちの本当の気持ちが引き出せるように、発問の吟味をしていきたい。
10		『体力アップ1校プラン』，『スポチャレ』等による体力向上の取組を計画的に行っている。	4→4 3→1 2→0 1→0	・ラダーの取組にも慣れ、５分以下の時間で終えられるようになってきた。 ・継続的に取り組み、児童も意欲的に取り組んでいる。 ・体育の時間に毎回取り組んだ。県の他の学校の様子も知らせることにより、意欲的に取り組むことができた。 ・数値の目標がはっきりしているので、児童の意欲がとても高く、積極的に取り組んでいる。 ・毎回、大粒の汗をかいて子どもたちは頑張っています。	・今後も継続的に行う。 ・スポチャレの結果を目に見える形で示す。 ・継続して行う。 ・目標を明確にし、児童の意欲を持続させていく。 ・スポチャレを継続的に行いたい。
11		地域の素材を元に学習活動や海洋教育を行ったり，地域の人材を活用したりして，『ふるさと学習』を積極的に展開している。	**4→2** **3→2** **2→1** **1→0**	・コロナウィルス対策のこともあり、遠慮してしまうことがった。 ・ほとんど活用できなかった。 ・社会科や総合において、地域の人材を活用することができた。児童も地域の良さを感じていた。 ・総合で能登町について扱い、児童はとても意欲的で、能登町について再発見していた。	・２学期は、道徳に絡めながら、積極的に活用していく。 ・指導計画に沿って、積極的に活用する。 ・今後も「ふるさと学習」を意識して行う。 ・これからも児童、指導者の必要感に応じて展開していきたい。
12		避難訓練や防災訓練等を通して，非常変災発生時の緊急行動，避難行動の仕方等を理解し身に付けることができている。	4→5 3→1 2→0 1→0	・事前指導を大事にし、何のためにするのか、丁寧に説明するように努めた。 ・事前指導、訓練、事後指導のつながりを大切に取り組んだ。 ・事前指導を行い、避難訓練の必要性を説明した。 ・子どもたちの意識は高い。	・「おかしもち」を繰り返し指導していく。 ・児童の振り返りから、次に向けて手立てを考える。 ・これからも事前指導をしっかりと行い、真剣にする大切さを説明する。 ・高学年なので、考えて行動することを引き続き指導したい。
13		最終退校時刻(19:00)を意識し、業務改善に努めている。	4→5 3→1 2→0 1→0	・ICTを活用しながら、子どもたちといっしょに考えた計画などは、同時進行でパソコンに打ち込みながら、あとからの整理の時間短縮に努めた。 ・自分の業務を整理し、優先順位を決めて、計画的に進めた。 ・同じ業務をまとめて行うことで、改善することができた。 ・意識はしている。優先順位もつけている。しかし、なぜかオーバーしてしまう。	・ICTを積極的に活用する。 ・わからないことは積極的に聞き、効率よく仕事を進める。 ・するべき業務内容のリストを作成し、同じ業務内容をまとめて行うようにする。
14		定時退校日(原則第3水曜日)を守るよう努めている。	4→6 3→0 2→0 1→0	・頑張りました。 ・守ることができた。 ・前日から計画的に業務を遂行した。 ・週単位で計画を立て、守れるようにした。 ・がんばっています！が、定時退校しても結局家で仕事しているから、どうなのかと思う。	・前日から意識する。 ・計画的に仕事をする。 ・効率よく業務ができる場所と時間を考える。 ・スクールサポートの方に期待したい！

●「Ｒ２年度　第１回学校評価自己評価」のための評価資料②（各種教育データ等）

通し番号	学校評価項目番号	内容	評価	評価の根拠		今後に向けて
15		4教科の単元末テストで，当該単元の目標通過率（80%以上）を達成できている。	**4→3** **3→2** **2→0** **1→0**	4教科『単元末テスト』の点数の平均値	80%以上達成が全校で 国語（47）人　算数（53）人 社会（33）人　理科（34）人 ※社会・理科は、3年生以上（37人）	・実践力を高めるための取り組みを話し合う。 ・実践力が高まったかを把握するため、日常的に児童の様子を見取り、変化を見逃さない。 ・達成できなかった児童に対して、個別の支援を行う。
16		『漢字テスト』において，各学年の目標通過率（90%以上）を達成できている。	**4→0** **3→4** **2→0** **1→0**	年間3回『漢字テスト』の点数	90%以上達成が全校で （ 47 ）人	・達成できなかった児童には、毎日の積み重ねを行う。
17		『計算テスト』において，各学年の目標通過率（90%以上）を達成できている。	**4→2** **3→2** **2→0** **1→0**	年間3回『計算テスト』の点数	90%以上達成が全校で （ 48 ）人	・達成できなかった児童には、苦手な分野の補充を行う。
18		校内『活用力問題』で，当該学年・当該教科の目標通過率を達成できている。（目標通過率60%）	**4→1** **3→2** **2→2** **1→0**	1学期末『検証問題』の成績	・１年　５９%　・４年　６６% ・２年　２８%　・５年　５０% ・３年　８２%　・６年　２３% ・全校　５３%	・３年きらきらで取り組んだ問題に類似した問題は正答率が良かったので、これからもいろいろな問題に取り組ませたい。 ・複雑な問題場面を数理的に捉える原動問題に取り組み、二学期の児童の伸びに期待したい。
19		『読書冊数年間100冊以上』等の啓発活動において，目標値を達成できている。	４→０ ３→５ ２→０ １→０	1学期末の読書記録等，学校全体としてのデータをもとにする	・１年　７３%　・４年　７５% ・２年　６７%　・５年１００% ・３年１００%　・６年　９０% ・全校　８４%	・児童の現状を把握して、個別に月目標を持たせる。また、声掛けを行う。 ・縦割り班対抗読書ラリーを行う。 ・図書委員会による読書の楽しさや大切さを伝える寸劇で本を借りるきっかけづくりをする。
20		地域資源（人材・施設・歴史・自然）を活用した授業づくりを行っている。	４→２ ３→２ ２→１ １→０	学期に１回以上の教員の割合	平均 （ 2.5 ）回実施した	・新しい人材や活用場面を見い出していく。

【記述欄】